

令和8年度 日新小学校の学校経営

令和8年4月1日

1 学校経営のテーマ〈キャッチフレーズ〉

みんなニコニコ日新の子 ～レッツ チャレンジ！勇気を出して～

教育を取り巻く環境がめまぐるしく変化している中、学校には子供たちが将来の夢や目標に向かって主体的に課題を解決したり、新たな課題を見いだしたりする力を身に付けることが求められている。また、本校の児童数の減少は今後も続き、5年後には全学年単学級になることが見込まれている。

このような状況においても、子供たちが夢の実現に向けて、自分の力や仲間を信じ、多少の困難にも勇気を出して挑戦する意欲を育むために、保護者、地域、学校がそれぞれの強みを出し合いながら協働して教育を推進していく。

2 学校教育目標

清新の気を持ち 創造性豊かで 主体的に行動できる子の育成

(1) めざす子ども像

- 自分で考え すすんで学ぶ子（知）
（正しい知識を身につけ、自ら学びとれる主体的・創造的な生活ができる子ども）
- 力を合わせ 思いやりのある子（徳）
（豊かな情操をもち、相手の立場を大切にしたり、温かい心で生活ができる子ども）
- たくましく 最後までやりぬく子（体）
（健康で安全な生活へ深い関心をもち、物事に対しては積極的に最後までやりぬく子ども）

(2) めざす学校像

- 子どもにとって ⇒ 自分の居場所がある学校
（自分のよさや持ち味を存分に発揮でき、明日も行きたいと思える学校）
- 教職員にとって ⇒ やりがいのある学校
（笑顔あふれる子どもたちの成長を実感し、協働して教育に当たることができる学校）
- 保護者にとって ⇒ 安心して通わせることのできる学校
（子どもの成長が期待でき、環境が整備され、安心できる学校）

(3) めざす教師像

- 子どもの良さや可能性を伸ばすことに努める教師
- 確連報(確認・連絡・報告)で協働意識を高め、信頼で結ばれる教師
- 教育の専門家としての誇りをもち、主体的に学び続ける教師

3 経営の重点

(1) 児童の資質・能力の向上

① 学ぶ力の育成

教科指導はもとより、学校生活でのあらゆる場面において、新たな課題や問題に対して、自分で考える、友達の意見や教科書等を参考にして考えるなど、自分なりの考えをもち、考えたことを工夫しながら実践（試行錯誤）するとともに、その過程を表現（言語化）する力を身に付けさせていく。とりわけ、授業改善を推進するために「苫小牧市における授業改善策」にある4つの共通取組場面「見通す・決定する・協働する・振り返る」を位置付けた授業を展開する。

② 学ぶ基礎となる力の育成

学習の基盤となる「読む・書く・計算する力」を身に付けさせるために、学校図書館と連携して読書に親しむ態度を育てるとともに、朝学習等の時間を活用して、発達段階や児童個々の能力に応じた文章を書く力や計算する力の向上に組織的に取り組む。

③ 運動・スポーツへの意欲向上

休み時間に運動に親しみやすい環境を整えるとともに、体育の授業において競技経験者等の専門性のあるゲストティーチャーを招くなど、児童の運動やスポーツに対する興味や意欲を高めていく。

(2) 高め合い、安心して過ごせる環境づくり

① 自分のよさの実感

学級・学年経営、児童会活動等においてキャッチフレーズ（みんなニコニコ日新の子～レッツチャレンジ！勇気を出して～）を意識させた活動を実践するとともに、自己の成長に目を向けさせるために、挑戦したことやできるようになったことなどを記録させる取組を通して、児童の自己肯定感や自己効力感をより一層高めていく。

② 心安まる居場所づくり

不登校の未然防止に向け、心の不安定な児童についても校内教育支援センターで積極的に受け入れると共に、空き教室を活用して、心と体、健康、学習等をテーマにした交流ルームを設置することで、児童が安らげる場所を増やしていく。

③ 思いや願いが叶う学校文化の創造

異学年による学習成果の交流、よりよい学校めざして課題を解決しようとする児童会活動、全校で創り上げる歌声など、児童が夢や希望をもって学校生活を送れるように児童同士の交流活動の充実を図る。

(3) 社会生活力の向上

① 生活・学習習慣の確立

メディアの適切な利用や朝食の大切さについて考える機会を設定し、「元気アップ週間」等を通して自分の生活を見直すなど、家庭と連携した望ましい生活習慣の確立を目指す。また、「そろえる活動」の指導を徹底することで、学校生活における基盤を確立する。

② 円滑なコミュニティの構築

児童の望ましい人間関係を形成するために、状況に応じた「あいさつ」と相手への思いを示す「ありがとう・ごめんなさい」を自分の意思と言葉で伝えることができる態度を身に付けさせる。

(4) 保護者・地域、学校段階間の連携

① 保護者・地域と学校が共に子どもを育てるという意識を高めるために、学習や生活のルールの共有化を図るとともに、学校からの文書を見直し、学校の敷居を低くするわかりやすい情報にして発信する。

② 学校運営協議議会を通して、地域や学校課題を共有し、学校支援への気運を高めていく。

③ 中学校と指導の連携に向けて共通実践を見いだしていくとともに、保育園・幼稚園とは連携、接続に向けた交流活動の充実を通して架け橋を築いていく。

(5) 教職員の資質能力の向上と校務の効率化

① 校内研究の課題とは別に個人の研究課題を設定し、教員一人一人のステージに応じたスキルアップを図る。

② 組織的な教科担任制による指導時数・指導教科数の軽減と教材研究の効率化を図る。

③ ICTを効果的に活用することで、保護者の学校理解を高める情報発信と教職員間における情報の共有、整理、保存等にかかる時間や労力を軽減する。